

特別支援学校の体育の授業に おける iPad を利用した介入の在り方

知的障害児の前転の指導における iPad を用いたビデオモデリング取り入れ

○藤井 誠* 岡田 信吾**

(*就実大学教育学研究科, **就実大学)

KEY WORDS: 前転 iPad ビデオモデリング

(目的)

知的障害のある児童・生徒の指導においては、師範への注目の困難さや、言語指導指示理解の困難さのため、教師の師範と言語指示のみでの身体運動の形成や指導は難しい。先行研究から、タブレット型パソコン(Apple 社製 iPad 以下 iPad と略記)を用いたビデオフィードバック手続きを取り入れることで、これらの指導上の困難さを軽減できるのではないかと考えた。本研究では、新しい運動獲得場面において、iPad を用いたビデオフィードバック手続きを取り入れた指導を工夫し、新規動作の取得の可能性を検討することとした。

(方法)

A 特別支援学校の体育の授業と朝の運動の時間に知的障害のある男子児童 3 名に対して、ビデオフィードバック手続きを取り入れた指導を週 2 回おこなった。

○児童の実態

A 児：4 年生、発語はないが、教師側からの言語指示を理解し行動に移すことができる。

B 児：4 年生、発語はあるがおうむ返しが多い。教師からの指示を理解して行動に移すことができる。

C 児：4 年生、発語はあるがおうむ返しが多い。教師側からの指示は理解し行動に移すことができたりできなかったりする。

○ベースライン期

これまでと同様、教師の師範後、児童は前転を行った。児童の前転後、教師は言語指示で前転の指導を行った。

○介入①

教師の師範を iPad で動画撮影し視聴させる。その後児童に前転を実施させ撮影する。2 回目の児童の前転実施直前に自身の動画を iPad で視聴させるとともに、言語で修正点を指摘し、前転を行わせるようにした。

介入②

介入①で上手くいかなかったところを改善するために改良した手順 4 つを加え再検討をおこなった。

1. 教師の師範を撮影し、テレビで児童に視聴させる。
2. どこに手を着けば分からず、前転にとりかかるまでに時間がかかる児童がいたため、視覚的支援ツールとして、手のひらが書いてあるシートを用意する。
3. 児童の前転の様子を撮影した後、2 回目の順番を待ってから動画を視聴し、言語指示を行っていたが、1 回目の前転終了後すぐに動画を視聴させ、言語指示を行い 2 回目の前転を行わせるようにする。
4. 自分の動画のみを視聴させるのでは、良い点、悪い点を理解しにくいと判断したため、教師の師範動画や自分の良かった時の動画をテレビを使用し比較を行えるようにする。

○データ収集

前転は、個別の前転評価表(表)を用いて、ビデオ画像を

評価し、該当する項目数を達成度としてパーセント表示した。

○前転の評価表

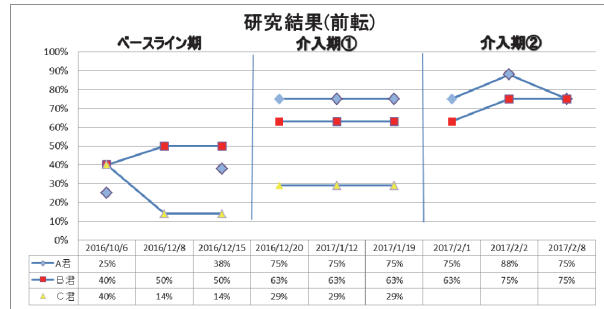
(共通) マットに両手を平行に付けているか。ノ顎を引いて、おへそを見ることができているか。ノ腰を高く上げ、後頭部、肩、背中、腰の順番でマットに接地できているか。ノまっすぐ前転をすることができているか。ノ身体をうまく丸めることができているか。

(A 児) 連続二回前転を行うことができる。ノ膝を引き付けて立つことができる。ノ素早く立ちポーズをとることができる。ノ

(B 児) ノ顎を入れて、最初のスタートの時に後頭部の近くをマットにつけることができる。ノ素早く立ちポーズをとることができる。ノ手を平行の状態のまま前転を行うことができる。ノ

(C 児) ノ足と手をなるべく近くに置き、腰を高くすることができる。ノ前転を怖がらず行うことができる。

(結果)



A 児：介入①において、「腰を高く上げ、後頭部・肩・背中・腰の順番で接地できているか」と「まっすぐ回転することができているか」と「体をうまく丸めることができているか」が改善し、続く介入②では、「素早く立ちポーズをとることができる」を行うことができた。

B 児：介入①において、「顎を引いておへそを見ることができているかどうか」が改善し、続く介入②では、「マットに両手を平行につけているか」と「顎を入れて、最初のスタートの時に後頭部の近くをマットにつけることができる」を行うことができた。一方で、評価表の「素早く立ちポーズをとることができる」をすることができなかった。

C 児：介入①において「マットに両手を平行につくことができているかどうか」を行うことができた。介入②は体調不良の為参加できなかった。

(考察)

iPad を用いた指導によって、参加した 3 人の児童すべての前転の項目該当率が向上した。知的障害のある児童に対して、この指導は一定の効果があると考えられる。その理由として注視率の改善が

(FUJII Makoto, OKADA Shingo)